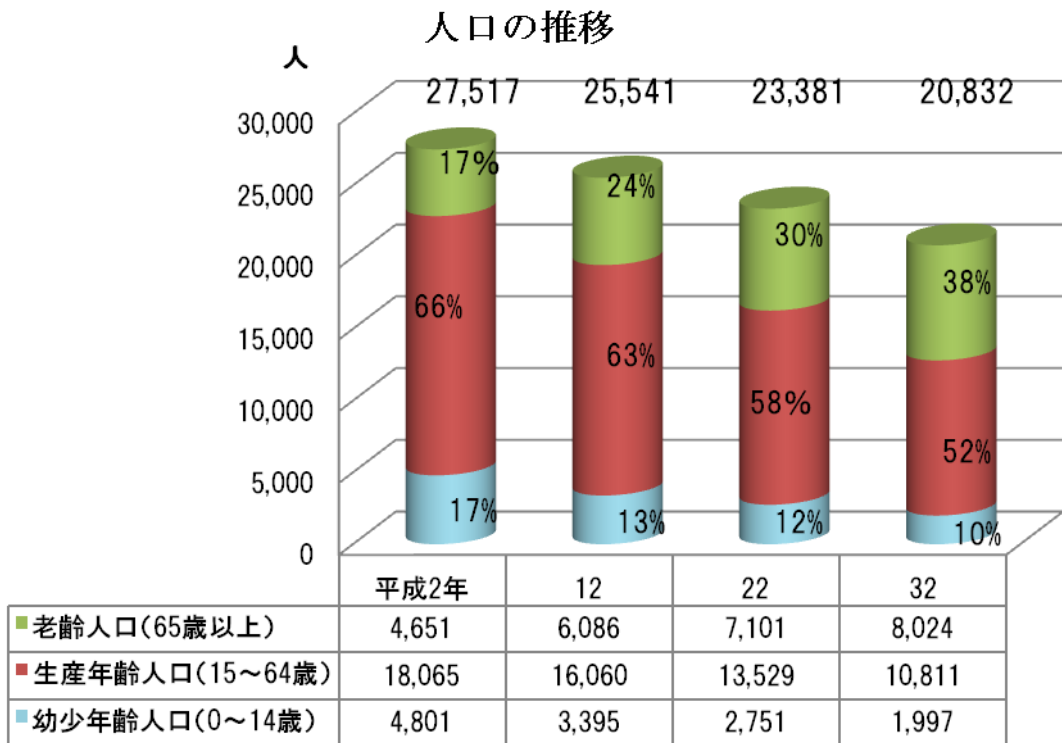


人口について

1. 市全体の人口の推移
2. 構成でみる人口の推移
3. 出生、死亡(自然動態)
4. 転入、転出(社会動態)
5. 各地区ごとの人口推移
6. 少子高齢化の比較
7. 就業、就学に伴う一日の流れについて

1. 市全体の人口の推移 加速する少子高齢化

- ・ 高齢人口割合は、現在約 30%だが、10 年後には約 40%に。
- ・ 生産年齢人口割合は、現在約 58%だが、10 年後は約 50%に。
- ・ 幼少人口は、現在約 12%あるが、10 年後は約 10%に。
- ・ 10 年後は人口の半分で残りの人口を支えるという状況になる。



出典：国勢調査（平成 22、32 年は国立社会保障・人口問題研究所による推計）

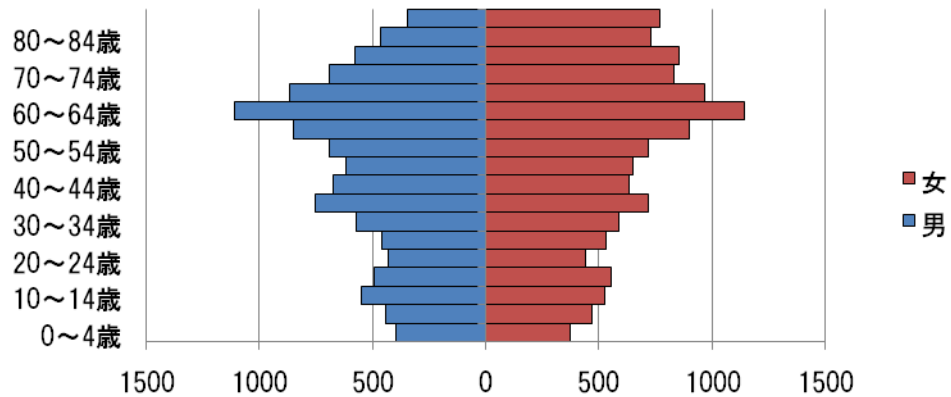
2. 構成でみる人口の推移

ピラミッドから逆ピラミッドへ

1) 平成 22 年人口推計（現在）

- ・団塊の世代が、最も人口が多い階層となっている。その上の世代はピラミッド型となっている。
- ・第 2 次ベビーブームの世代の山を境に、若い世代の人口が少ない。逆ピラミッドになっている。

羽咋市の人口推計ピラミッド（平成22年）

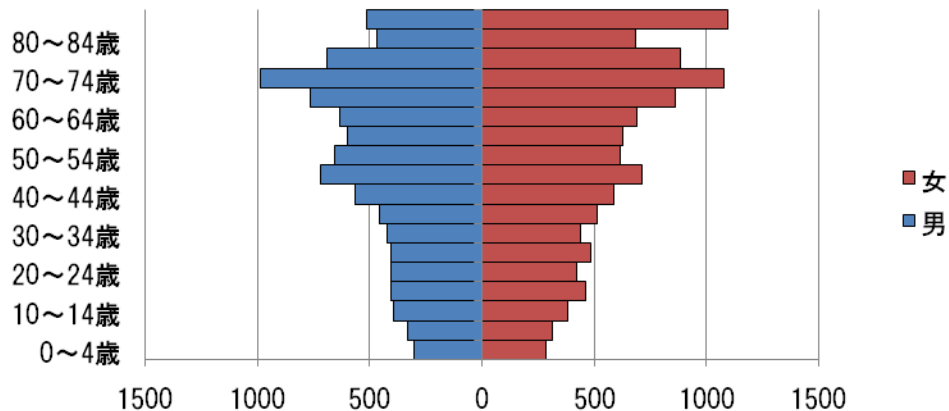


出典：国立社会保障・人口問題研究所

2) 平成 32 年人口推計（10 年後）

- ・男女ともに 70 歳以上の階層が最も多い。
- ・34 歳以下の労働力の高い人口が少ない。
- ・年少人口、生産年齢人口が少なく、老年人口を支える世代の減少が著しい。

羽咋市の人口推計ピラミッド（平成32年）

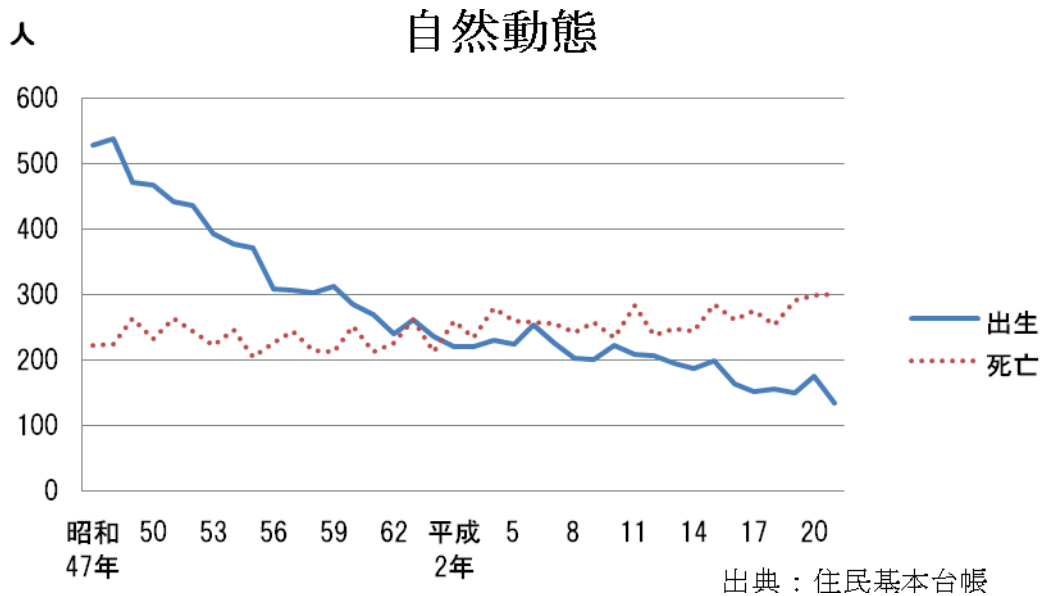


出典：国立社会保障・人口問題研究所

3. 出生、死亡(自然動態)

死亡が出生を大幅に上回る傾向

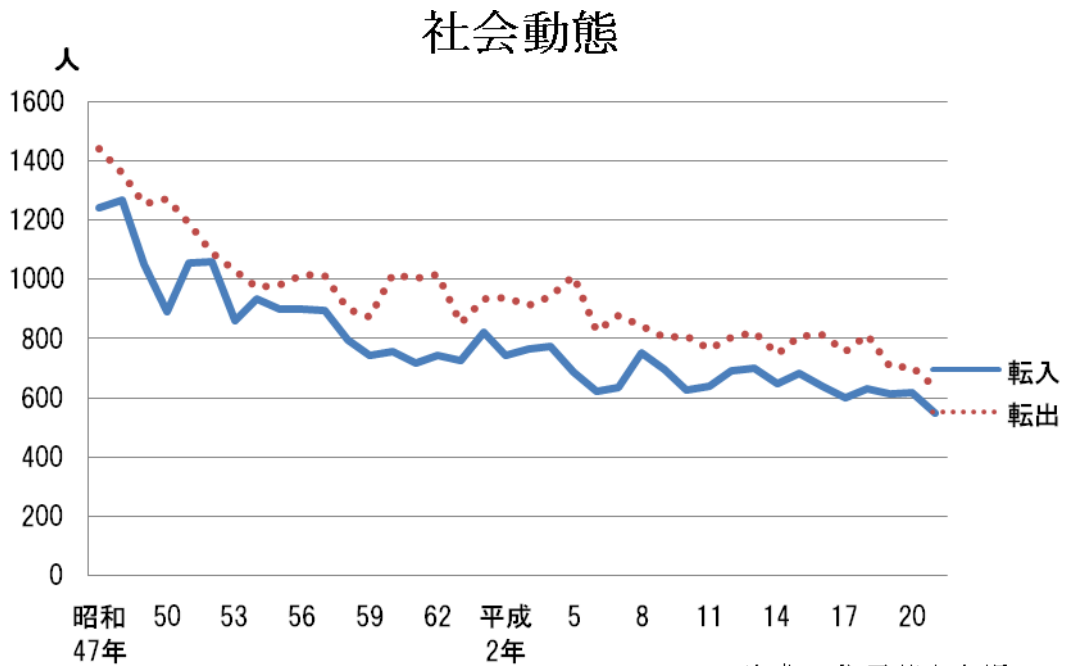
- ・昭和 50 年前後は出生が大幅に死亡を上回り、約 2 倍ほどだった。
- ・平成元年あたりを境に出生が死亡を下回るようになった。それ以降、その差は拡大傾向にある。少子高齢化を加速させているといえる。



年	出生	死亡	出生—死亡
平成 10 年	222	234	△ 12
11	208	283	△ 75
12	205	238	△ 33
13	194	248	△ 54
14	186	244	△ 58
15	198	285	△ 87
16	163	262	△ 99
17	150	275	△ 125
18	154	254	△ 100
19	149	292	△ 143
20	174	300	△ 126
21	133	301	△ 168

4. 転入、転出(社会動態) 転出超の累積

- ・転出が転入を上回る状況は過去から変わらないが、累積によって、人口減少が加速しているといえる。



出典：住民基本台帳

年	転入	転出	転入—転出
平成10年	625	809	△ 184
11	639	769	△ 130
12	691	806	△ 115
13	700	822	△ 122
14	647	749	△ 102
15	684	811	△ 127
16	641	815	△ 174
17	601	760	△ 159
18	630	814	△ 184
19	612	706	△ 94
20	617	706	△ 89
21	548	637	△ 89

1) 他の市町村との人口の転出先、転入元

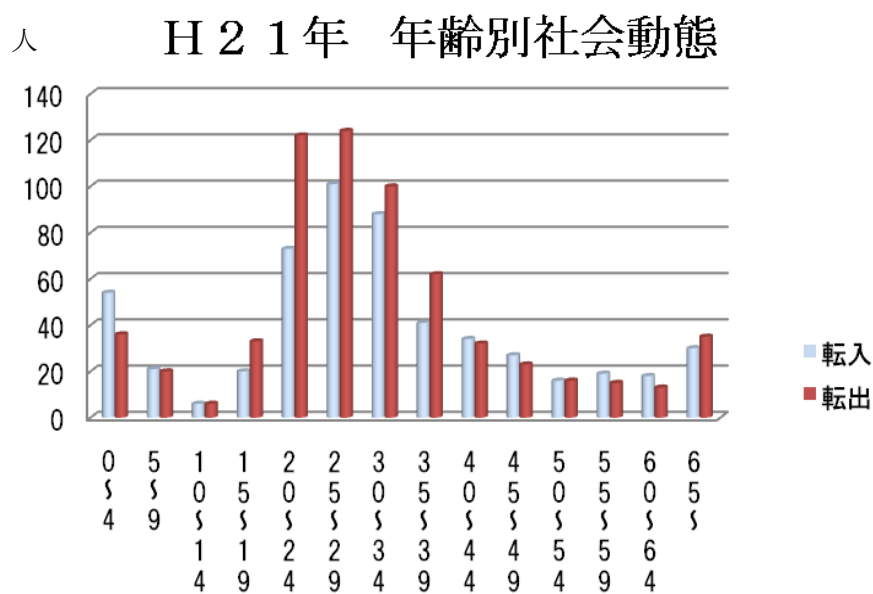
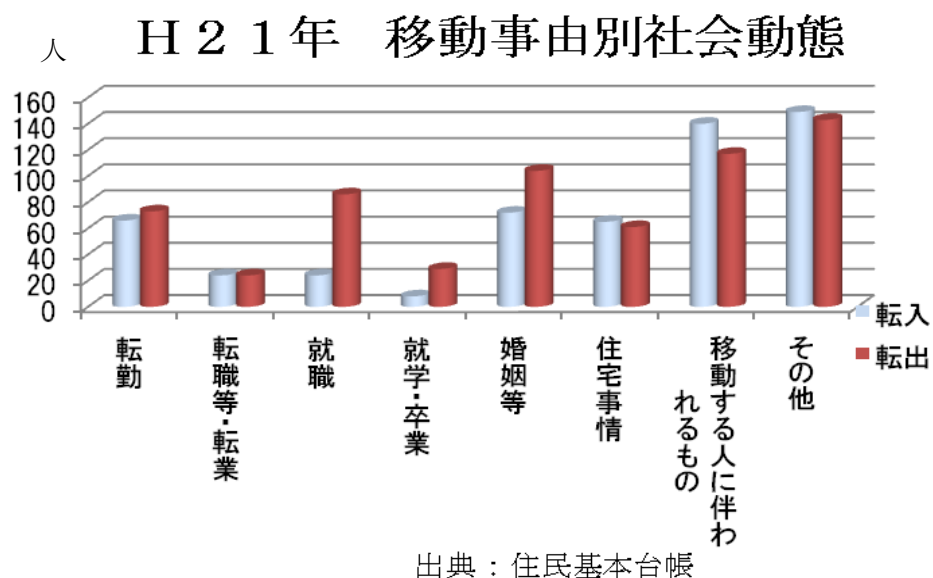
- ・金沢市、東京都については転出が転入を上回っている。
- ・近隣の志賀町や宝達志水町は転出より転入が上回っている。但し中能登町は転出が転入を上回っている。

転出先			転入元		
NO.	自治体	人数	NO.	自治体	人数
1	金沢市	142	1	金沢市	87
2	東京都	42	2	宝達志水町	53
3	富山県	38	3	志賀町	40
4	宝達志水町	37	4	七尾市	34
5	かほく市	35	5	富山県	31
6	七尾市	31	6	大阪府	25
7	愛知県	28	7	東京都	23
8	中能登町	24	8	中能登町	18
9	白山市	20	9	国外	16
10	国外	19	10	愛知県	15
	その他	221		その他	206

出典：H21 住民基本台帳

2) 理由別転出、転入

- ・ 転出が転入を上回っている理由で最も多いものは、就職、就学、結婚などである。
- ・ 転出が転入を上回っている年齢は、20代、30代が最も多い。

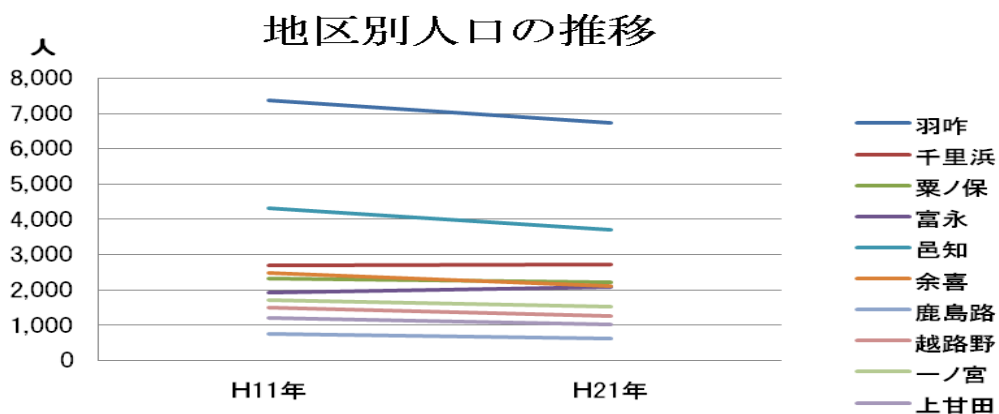


5. 各地区ごとの人口推移

人口減少と核家族化に伴う世帯数の増加

1) 地区別人口の推移

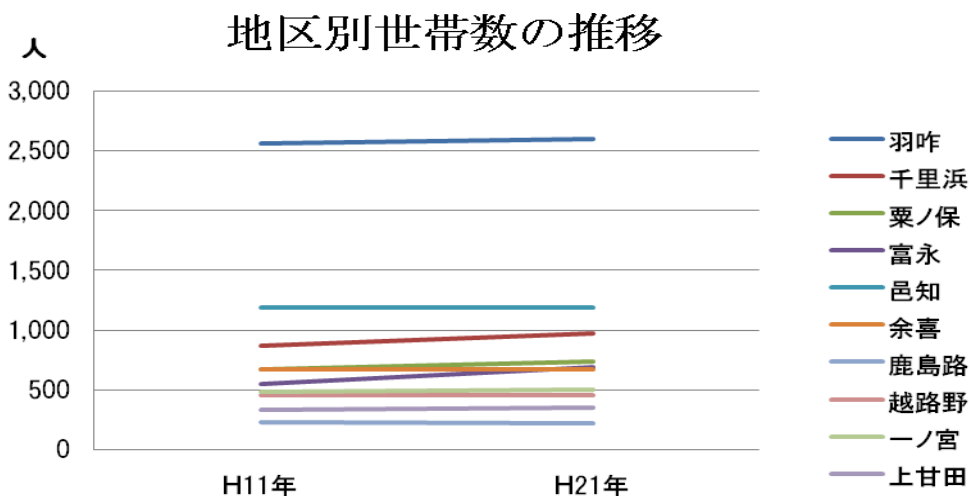
- ・ 富永、千里浜地区以外は減少している。平均で9%の減少。
- ・ 最も増加率が大きいのは、富永地区で9%の増加。次いで千里浜地区は横ばい。
- ・ 羽咋地区は9%の減少、粟ノ保地区は4%の減少。一ノ宮地区は10%の減少。邑知、余喜、鹿島路、越路野、上甘田地区は、約15%の減少。



出典：住民基本台帳

2) 地区別世帯数の推移

- ・ 邑知、余喜、鹿島路地区以外は、世帯数が増加している。平均5%の増加。
- ・ 最も増加率が大きいのは、富永地区で25%の増加。次いで千里浜、粟ノ保地区で約10%。
- ・ 最も減少率が大きいのは、鹿島路地区で6%の減少。



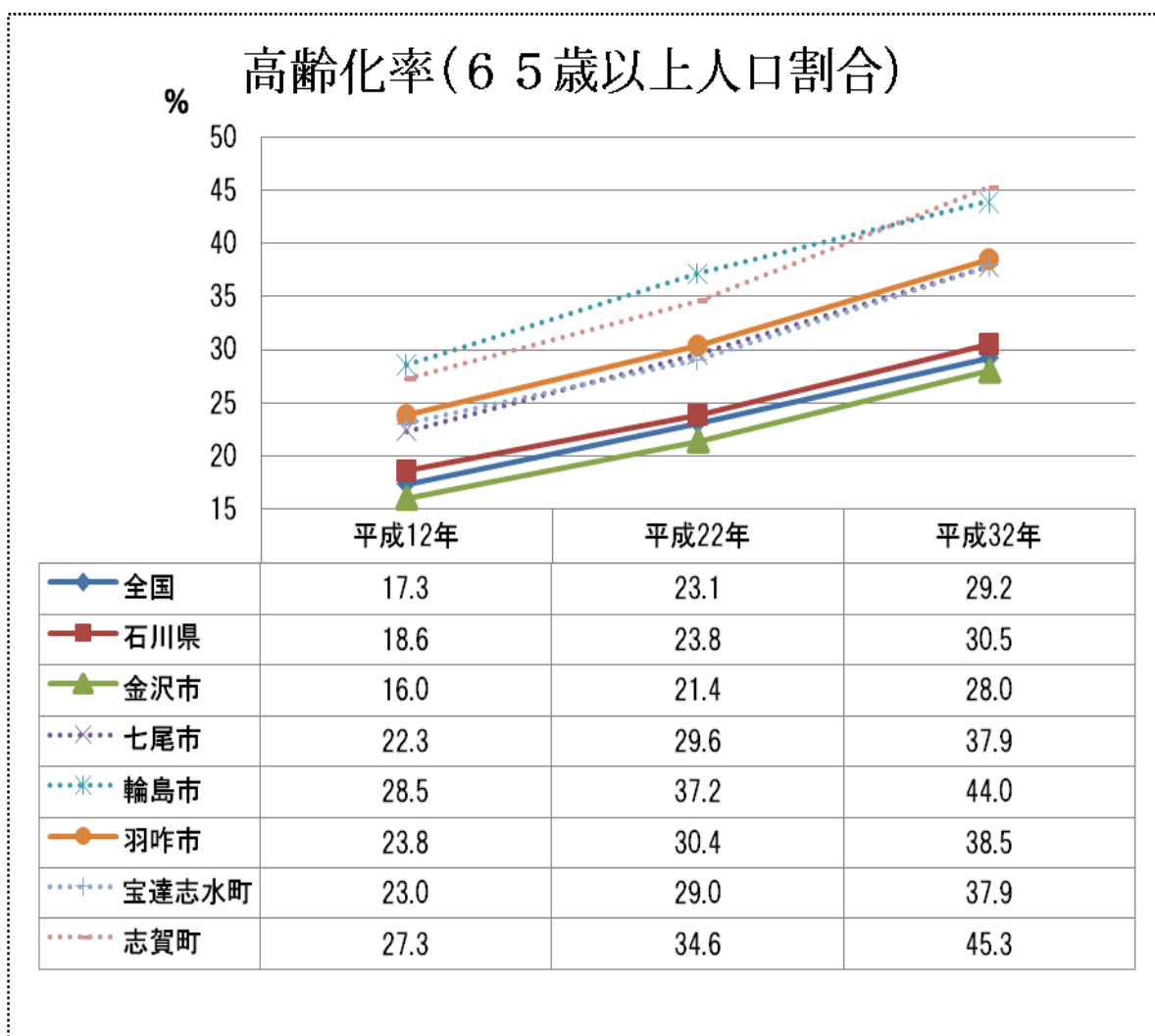
出典：住民基本台帳

6. 少子高齢化の比較

全国よりは少子高齢化が進む、能登のなかでは緩やかなほう

1) 高齢化率

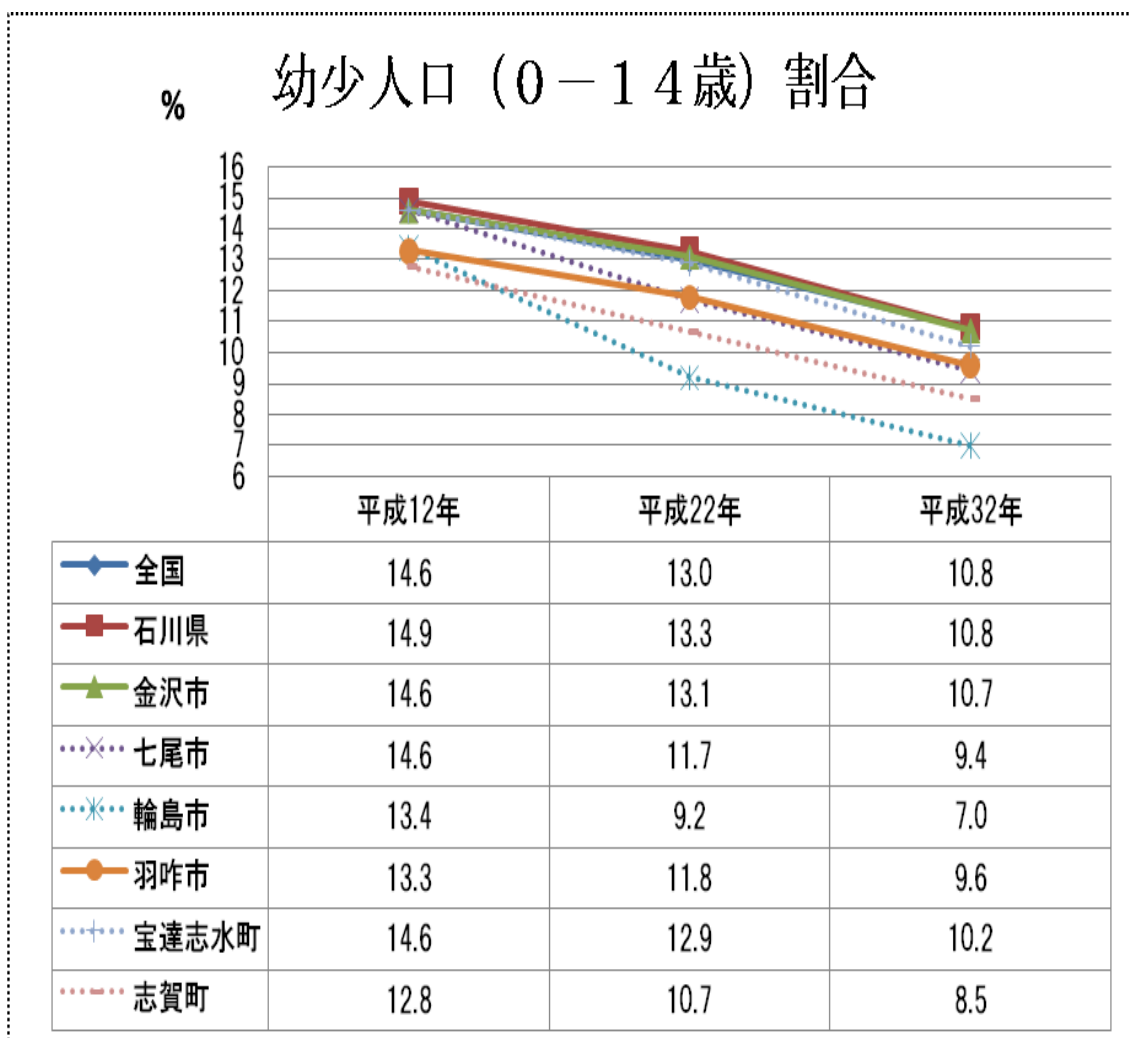
- ・羽咋市は平成 22 年で、30.4%で全国と同じく超高齢社会となっている。
- ・羽咋市の高齢化率の推移は宝達志水町、七尾市と類似している。
- ・志賀町や輪島市と比較すると羽咋市は低い。
- ・羽咋市の高齢化率は、能登の中では比較的低い方である。



出典：国勢調査（平成 22、32 年は国立社会保障・人口問題研究所による推計）

2) 幼少人口割合

- ・羽咋市は、全国、金沢市よりは少子化傾向にある。
- ・羽咋市は能登では少子化が比較的進んでいないといえる。輪島市、志賀町と比較すると、まだ緩やかな傾向。
- ・羽咋市は志賀町より幼少人口割合が高い
- ・宝達志水町は、羽咋市より幼少人口の比率の割合が高い。



出典：国勢調査（平成 22、32 年は国立社会保障・人口問題研究所による推計）

3) 高齢人口、幼少人口からわかること

- ・羽咋市は、宝達志水町と同程度、高齢化率が推移するが、幼少人口割合は低くなっている。
- ・志賀町は羽咋市より少子高齢化が加速している。

7. 就業、通学に伴う一日の流れについて 他市町への流出超

- ・他市町から流入する人口は、約 4,500 人。他市町へ流出する人口は約 5,100 人。約 600 人が流出超。
- ・市在住で従業、通学している人の中で、市内に従業、通学する割合は 66%。34%は他市へ従業、通学。

常 住 地 に よ る 人 口					
総数(夜間人口)a	従業も通学もしていない	自宅で従業	自宅外の市内で従業・通学	県内他市町で従業・通学 b	他県で従業・通学c
24,517	9,399	1,930	8,037	4,986	110

従業地・通学地による人口			昼 夜 間人口比率(d/a ×100)
総数(昼間人口)d	dのうち県内他市町に常住e	dのうち他県に常住 f	
23,880	4,281	178	97.4

出典：H17 国勢調査

イ) 従業者の内訳

当市から他市町村への従業者

1	金沢市	1,106
2	宝達志水町	894
3	七尾市	618
4	志賀町	593
5	かほく市	393
6	中能登町	364

他市町村から当市への従業者

1	宝達志水町	1,087
2	志賀町	748
3	中能登町	670
4	七尾市	436
5	金沢市	232
6	かほく市	210

7	津幡町	115
8	他県	100
9	白山市	82
10	内灘町	44
11	野々市町	25
12	その他の市町村	22
13	輪島市	16
14	穴水町	13
15	小松市	10
16	能美市	10
合計		4,405

7	他 県	178
8	津幡町	90
9	内灘町	32
10	その他の市町 村	27
11	白山市	24
12	穴水町	23
13	野々市町	13
14	輪島市	10
合計		3,780

ロ) 通学者の内訳

当市から他市町村への通学者

1	金沢市	309
2	中能登町	96
3	七尾市	76
4	宝達志水町	62
5	津幡町	43
6	白山市	33
7	かほく市	23
8	野々市町	17
9	他県	10
10	志賀町	9
11	小松市	1
12	その他の市町村	1
合計		680

他市町村から当市への通学者

1	志賀町	228
2	宝達志水町	150
3	中能登町	123
4	七尾市	109
5	かほく市	44
6	津幡町	10
7	金沢市	4
8	穴水町	4
9	その他の市町村	3
10	内灘町	1
合計		676